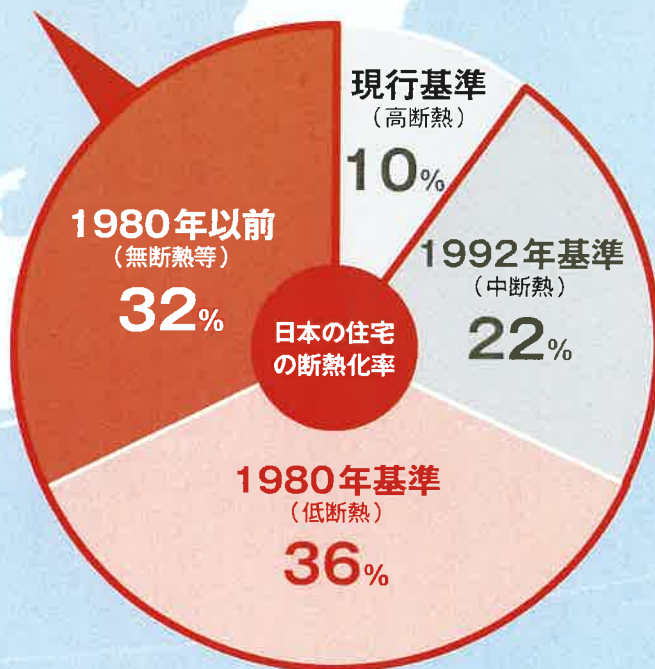


現在の省エネ基準に満たない住宅が

日本の家の**90%**を占めています。

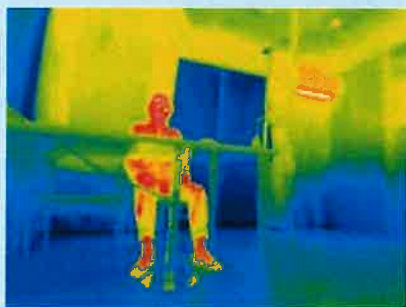
国内のエネルギー事情や地球温暖化対策として、新築住宅の省エネ化、ZEH化を目指し、国を挙げて取り組んでいます。一方で、現在の省エネ基準に満たない、低い断熱性能の既存住宅が全体の90%を占めており大きな課題に。それらの住宅は、省エネだけではなく「冬の寒さをガマンしている」という暮らしの問題も抱えています。



※国土交通省2019年社会資本整備審議会資料より作成

### 断熱性能の低い住宅における、暮らしのリスクとは

断熱性能が低く、現在の基準に照らして断熱施工が十分でない住宅に住み続けた場合、冷暖房エネルギーの無駄が多だけでなく、暮らしの快適性や健康、建物の耐久性に悪影響を及ぼすリスクがあり注意が必要です。



断熱性能の低い住宅のサーモグラフィー画像

画像を見ると室内の多くの部分が青や緑で、表面温度が低いことがわかります。

暑さ寒さによる  
快適性の低下



室内温度による  
健康のリスク



結露を原因とした  
建物劣化のリスク



現状では断熱性能の低い既存住宅が多いため、リフォームによる断熱性能の向上が求められています。

01

# リフォームで高い断熱性能を実現 気密性能にもこだわります

健康・快適な暮らしのために、トップレベルの断熱性能・こだわりの気密性能を目指し、SWリフォームパネルや天井・床・開口部断熱などのリフォームで高性能住宅を実現します。

既存の外壁は  
そのまま  
外張り断熱  
※カバー工法リフォームの場合



SWリフォームパネル  
(硬質ウレタンフォーム断熱材)  
熱伝導率  
**0.019W/mK**



## 断熱材の熱伝導率区分

断熱材区分	熱伝導率 W/mK	断熱材の種類
F	<b>0.019</b>	<b>SWリフォームパネル(硬質ウレタンフォーム断熱材)</b>
	0.022以下	フェノールフォーム断熱材1種・押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種D
E	0.028~0.023	硬質ウレタンフォーム断熱材2種・押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種A~C
D	0.034~0.029	現場吹付ウレタン(建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォームA種1、2)
C	0.040~0.035	グラスウール断熱材通常品24K(24-38)・吹込み用セルロースファイバー(25K相当)
B	0.045~0.041	グラスウール断熱材通常品16K(16-45、16-44)・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材4号
A-2	0.050~0.046	グラスウール断熱材通常品10K(10-50、10-49、10-48)・吹込み用ロックウール(25K相当)
A-1	0.052~0.051	吹込み用ロックウール(13K相当)